

第2章 研究の手法

2 - 1 穀物菜食団体『蒼玄』についての調査方法

2 - 1 - 1 ヒアリング調査

- ・ 1999年11月29日(月)八王子の本部において、蒼玄スタッフへのヒアリング
- ・ 蒼玄の会員へのヒアリング(対象は近親者・『蒼玄』長野支部のスタッフの方々)

2 - 1 - 2 資料調査

- ・ 『蒼玄』に関する基本的な情報は、食事指導の教材として利用する蒼玄のしおり、またはパンフレットなどを中心に得た
- ・ 八王子本部にて団体本部が毎月発行する会報誌のバックナンバー(1987年創刊号～1999年10・11月号)の閲覧
- ・ 蒼玄に関する論文
山本麻紀子：“食”から見た台所空間のあり方に関する研究 食生活形態の比較考察から，日本女子大学家政学部通信教育過程生活芸術学科，卒業論文(1996)

2 - 2 アンケート調査について

2 - 2 - 1 調査目的

アンケート調査は、『蒼玄』に所属する会員の環境意識や生活の様子を把握することを目的とする。会員個人の環境意識等をつかむことで、穀物菜食団体の全体像を浮かび上がらせる。さらには『蒼玄』という集団の分析を通じて、穀物菜食というライフスタイルを把握する。

2 - 2 - 2 調査方法

調査対象 『蒼玄』の会員全392世帯

調査方法 郵送配布・郵送回収

郵送：『蒼玄』の封筒に、アンケート用紙と返信用封筒を封入して送付。

『蒼玄』から会報誌の送付に使用している団体名入りの封筒と、会員の宛名シールを譲って頂いた。

回収：アンケート用紙に同封した返信用封筒(料金後納郵便)を使用。

調査期間 平成11年11月2日(送付)～18日(回収)

回収率 27.6%(108/392通)

2 - 2 - 3 アンケート票

アンケートの設計では、本調査対象である穀物菜食者と、非穀物菜食者とを比較するため、既存の類似調査^{3) 4)}の質問文・選択肢を基本的に用いている。既存調査の概要は以下に記す通りであるが、環境に対する意識や行動についての調査であることが共通している。本来ならば、穀物菜食者以外にも同じ調査票を用いて調査すべきであるが、既存類似調査をもって代替的に比較対象とした。

青柳みどり：市民の環境に対する態度形成と行動について，環境庁 国立環境研究所資料，F - 90 - '96 / NIES . (1996)

研究の概要 平成2～5年度地球環境研究総合推進費総合化研究2 (I R - 2) 「地球環境保全のための社会経済システムのあり方に関する国際比較研究」および平成6～8年度地球環境研究総合推進費人間社会的側面 (H - 1) 「地球環境負荷低減のための都市とライフスタイルのあり方に関する研究」において実施された調査データのデータ集であると同時に、共同して実施された他国の調査結果も収められた国際的な世論調査の資料集である。

調査目的 「市民の環境に対する態度形成と行動」について、国際的な枠組みで比較を行うことを目的とする。

調査項目 (前半部分) 環境に対する態度や行動、自然観、科学観、経済と環境、政府のあり方など
(後半部分) 環境に関する行動に焦点を当てているが、個人の行動だけでなく、社会システムとして環境を配慮した方向に持って行くための方策も含む

調査対象・調査期間

16歳以上の男女を母集団とした無作為抽出によるサンプリング
1993年1305名・1995年1624名

調査方法 個人面接法

井村秀文・奥村幹夫・二渡了：地球環境をめぐる生活者の意識と行動に関する調査研究，環境システム研究，Vol.21，pp.170-179 (1993)

研究目的 環境保全をめぐる市民の意識変化、環境負荷の発生につながる生活の実態と、それに対する意識、意識と行動の関係等の実態を分析する。また、特に、地球温暖化対策の上で重要な課題となっている省エネルギー的生活行動の実態と改善可能性について考察する。

調査項目 環境問題に対する認識・生活の実態・生活者の立場から地球環境保全に対しどの程度責任を感じているか、どのような責任を果たすべきと考えているか等 (ここでも既存の調査結果と比較するために、質問内容や選択肢に既存調査と同じものを意図的にかなり使用している。)

調査対象	福岡市・久留米市の20歳以上の男女市民4千人
抽出方法	福岡市：住民基本台帳から無作為抽出（2000人） 久留米市：選挙人名簿から無作為抽出（2005人）
調査方法	質問表を郵送（返信用封筒同封）し、回答は無記名の郵送によって回収
調査期間	福岡市：平成4年12月10日～24日 久留米市：平成5年2月1日～15日

2-2-4 アンケート概要

アンケートの質問項目は、大きく3つの部分に分かれる。1つ目として、地球環境問題に対する認識や、環境配慮行動の意志・実態等を問うもの（ . 環境意識に関する質問）が11問、2つ目は生活の実態、すなわち穀物菜食実践の様子を問うもの（ . 生活の実態に関する質問）が7問、最後に回答者のプロフィールを問うものが6問、計24問である。アンケート構成の詳細は以下の通りである。

. 環境意識に関する質問

地球環境問題に対する意識

- 1 地球環境問題に対する重要認識度を問う質問

「地球環境問題の重要性についてどう感じていますか。（既存調査 との比較項目）」

- 2 地球環境問題の分野別関心度を問う質問

「地球環境問題の中で、関心のあるものはどれですか。（3つまで選択）」（既存調査 との比較項目）」

地域環境への負担意識と環境配慮行動の意志に対する意識

- 3 生活において感じている環境への負担意識を問う質問

「生活の中で、地球環境に負担をかけていると感じることがありますか。」（既存調査 との比較項目）」

- 6 環境配慮商品購入の意志を問う質問

「あなたは、環境を守るためなら、値段の高い商品（環境保護に配慮した商品）でも買うつもりがありますか。（食品・日用品・雑貨品・自動車・冷蔵庫・住宅の5つの商品に対してそれぞれ回答）」

- 7 生活水準低下の許諾意志を問う質問

「あなたは、環境を守るためなら、今の生活水準を落とすつもりがありますか。」（既存調査 との比較項目）」

自然観

- 4 自然に対する考えを問う質問

「自然は神聖なものなので、人類は自然を尊ばなければならない（賛成か反対か）」（既存調査 との比較項目）」

- 5 自然と人間の関係に関する考えを問う質問
「人間が自然に手を加えなければ、自然は平穏で調和のあるものとなるだろう(賛成か反対か)」(既存調査 との比較項目)
生活行動の実態
- 8 リサイクル行動の有無を問う質問
「あなたは、廃品回収などによるリサイクル(資源再利用)のために、びんや金属、プラスチック、紙などを分けることをどの程度心がけていますか。」(既存調査 との比較項目)
- 9 食糧購入時の商品選定の有無を問う質問
「農薬や化学肥料を使っていない果物や野菜を買うことを、あなたは、どの程度心がけていますか。」(既存調査 との比較項目)
- 10 (倫理的又は環境保護を目的とする)肉食拒否の実態を問う質問
「**倫理的な理由や環境を守るために**、あなたは動物の肉を食べないことがありますか。」(既存調査 との比較項目)
- 11 自動車の使用削減努力の有無を問う質問
「環境を守るために、あなたは自動車の運転を減らすことがありますか。」(既存調査 との比較項目)

・生活(穀物菜食)の実態に関する質問

- 1 各商品の購入先を問うことにより、健康への気配り度を把握するための質問
「次の4つの商品(食品・台所用洗剤・シャンプー・歯磨き粉)について、それぞれの主な購入先はどこですか。」
- 2 食事指導に対する実践度を問う質問
「穀物菜食の実践状況についてお聞きします。」
- 3 半断食の実施状況を問う質問
「半断食はどのくらいの頻度で実施していますか。」
- 4 蒼玄への入会理由を問う質問
「あなたが蒼玄に入会した理由(動機)は何ですか。」
- 5 穀物菜食の継続理由を問う質問
「穀物菜食を継続している理由は何ですか。」
- 6 穀物菜食実践上の困難を問う質問
「穀物菜食を実践するうえで日々困っていることは何ですか。」(自由記述あり)
- 7 穀物菜食に求める理想を問う質問
「穀物菜食についてあなたの理想とするところは何ですか。」(自由記述あり)

．プロフィール

- F 1 . 氏名 (アンケートに関する詳細調査必要時のため)
- F 2 . 性別
- F 3 . 年齢
- F 4 . 職業
- F 5 . 居住環境
- F 6 . 家族構成 (現在同居している家族の続柄・年齢と、蒼玄の会員の有無)

自由記述

回答は、氏名記入欄以外全て選択式である。プロフィールに関しては、記入可能な範囲で回答して頂いた。

2 - 3 分析方法

単純集計

- ・ 集団としての傾向を見るために、アンケート項目の単純集計を行なう

回答者のタイプ分け

- ・ タイプ分けは回答者の差異を考慮するために行なう
- ・ タイプ分けに用いる変数には、アンケートの の質問群 (生活の実態) と環境意識の質問とをクロスして相関があった質問を用いる
- ・ 回答パターンの組み合わせの複雑さから、多変量解析を使用する
- ・ 数量化 類でサンプルスコアを求め、クラスター分析で類型化を行なう
- ・ 類型化して分類したグループの性質からグループ名称を決める
- ・ SPSS 9.0J for Windows を使用

属性別傾向の把握

- ・ 環境意識をはじめとするアンケートの質問項目と、属性をクロスする

考察

- ・ クロス分析の結果から、タイプ分けされた各集団の特徴を読み取る

参考文献

- 1) 青柳みどり：市民の環境に対する態度形成と行動について，環境庁国立環境研究所資料，F - 90 - '96 / NIES . (1996)
- 2) 井村秀文・奥村幹夫・二渡了：地球環境をめぐる生活者の意識と行動に関する調査研究，環境システム研究，Vol.21，pp.170-179 (1993)

